

## 令和5年度 第2回江別市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録（要点筆記）

日 時：令和6年2月15日（木）午前10時から午前11時15分まで

場 所：市民交流施設「ぷらっと」A・B会議室

出席委員：田口智子座長、龍田昌樹座長代理、伊藤留美子委員、布施望委員、福沢康弘委員、古市俊章委員、斎藤史朗委員、佐々木尚弘委員、腰原久郎委員、荒木太郎委員（計10名）

オブザーバー：矢野敦子石狩振興局地域創生部長

欠席者：粕谷堅一郎委員、小西祐哉委員

事務局：白崎企画政策部長、伊藤企画政策部次長、水口政策推進課参事、北島主査、眞鍋主査

傍聴者：なし

### 会議概要

#### 1 開会

#### 2 議事（1）令和6年度地方創生関係交付金申請予定事業について、事務局説明

##### ○田口座長

事務局から説明があった4事業について、令和6年度で事業開始から5年目を迎えるとのことだが、以前の本有識者会議において、国の交付金は、最長で5年間交付されるとの説明を受けたと記憶している。そのため、当該事業については、来年度をもって交付金が交付されなくなるという理解でよろしいか。

##### ○事務局

ご指摘のとおり、地方創生推進タイプの交付金は、最長5年間交付されるものである。そのため、来年度に実施する4事業全てが、再来年度には交付対象とならない可能性が高い状況である。

一方で、交付金が交付されないことをもって事業が終了するものではなく、引き続き、実施すべき重要な事業もあることから、どのように事業展開をするのか、今後、事業所管課において検討してまいりたい。

#### 議事（2）江別市まち・ひと・しごと創生有識者会議の在り方について、事務局説明

##### ○田口座長

2点お伺いする。

1点目は、国が総合戦略を抜本的に改定し、デジタル技術の活用を強く謳うことに伴い、江別市においても同様の方向性を意識しながら総合戦略を策定していくことは理解したが、デジタル技術の活用という部分に焦点が当たりすぎることに懸念がある。市として、デジタル技術の活用という観点をどのように捉えているか、お伺いしたい。

2点目は、江別市の中に、既にデジタル技術の活用に関する委員会があると思うが、新たな会議体との連携や整合性について、どのように考えているのか、お伺いしたい。

## ○事務局

1点目について、総合戦略の目的は、江別市が住みやすく、選ばれ続けるまちとすることであり、デジタル技術の活用は、それを実現するための手段であると捉えている。

2点目について、ご指摘のとおり、企画政策部内では、未来型政策検討委員会というデジタル技術の活用に関する委員会を所管しているが、総合戦略にデジタルの要素を取り入れるに当たり、部内で両会議体の再編成も含めた調整を行っているところである。調整結果については、次回の有識者会議において、お示ししたい。

## ○龍田座長代理

私は、未来型政策検討委員会にも所属していることから、事務局に対し、事前に類似性について指摘をしたところである。国がデジタルに関する政策を打ち出す中で、市として迅速に対応する必要があると、未来型政策検討委員会を立ち上げたと思うが、国が総合戦略にデジタル技術の活用を謳うのであれば、両会議体を集約することも考えられるのではないかと。

また、デジタル技術というのは手法の一つであることから、本会議体で議論すべき事項は、別のところにあると考える。今後は、まちづくりの観点とデジタル技術の活用をうまく融合することが重要になってくるため、委員構成も含め、会議体の見直しを行う良い機会だと思う。

## ○布施委員

私も未来型政策検討委員会に所属しているが、基本的な考え方は、龍田座長代理と同様である。総合戦略にデジタル技術の活用が強く謳われたのであれば、それに沿う形で会議体を見直すことは自然である。

なお、会議体の規模は、現在と同程度が良いのではないかと考えている。

また、名称等や任期については、特段の意見はないため、事務局の案を尊重したい。

## ○斎藤委員

私は、ハローワークの代表として出席をしているが、毎年4月に人事異動が行われるため、継続性という部分に課題があると感じている。そのため、委員構成を検討するに当たっては、重複している分野の方を集約することも考えられるのではないかと。

また、デジタル技術に関しては、私自身も詳しく分からない部分も多いため、専門知識を持った方に参画いただくと良いと思う。

## ○腰原委員

市民公募委員を増やすのであれば、その人数分だけ委員数を増やしても良いのではないかと。

また、金融機関もデジタルの取組に力を入れており人材も有している。そのため、当社の人材を有効活用することも考えられる。

名称に関しては、総合戦略推進委員会など、分かりやすい名称が良いのではないかと。

## ○矢野オブザーバー

現在、北海道では、現行の総合戦略に関するワーキンググループを立ち上げ、検証作業を行っているところである。その後、北海道創生協議会において、具体的な内容を諮りながら、策定作業を行っていく予定である。

また、委員構成について、他市では、IT企業の方を委員に入れているところもあるので参考にしていきたい。

○荒木委員

本有識者会議では、大学生の話題が多いので、大学生に参画していただくと面白いと思う。

また、江別市は、札幌市に通勤している方が多いという特徴があるので、そうした方に参画いただくことで、江別市の新たな可能性を見つけることもできるのではないかと。

○佐々木委員

デジタル技術に関する専門家が必要だと思うが、他委員との知識格差が大きくなってしまいうので、人選には留意が必要である。

○古市委員

基本的には、事務局の提案どおりで問題ないが、市民公募委員を募集するに当たっては、新しい会議体で検討する内容に一定程度詳しい方が良いのではないかと。

○福沢委員

私が所属している江別市行政改革推進委員会は、10名の会議体で4名の市民委員が参画している。そのため、新しい会議体においても、仮に現行と同じ12名程度となるのであれば、少なくとも3名程度の市民公募枠があっても良いのではないかと。

○伊藤委員

市民公募枠を設けることは非常に良いことだと思うが、新しい会議体で議論する分野に興味のある方が望ましいのではないかと。

また、これまで出席して感じたことだが、本有識者会議で議論された内容を所属団体で生かせていないと感じている。私が所属する江別市男女共同参画推進連絡協議会が、市民枠として声がかかっているのであれば、市民公募枠を設けるタイミングで、委員構成から外れても良いのではないかと考えている。

○龍田座長代理

各委員に共通していることだが、各所属の代表として出席しているものの、本有識者会議では、一市民として発言しているのが実態である。一方で、各委員は、それぞれ専門的な知識を有していることから、議論を交わすことで相乗効果が生まれると思う。さらに、委員の中に全体を俯瞰して見ることができる方に参画いただければ、さらに強固な会議体になると感じている。

また、会議体は、人数が多ければ良いというものではない。7、8名程度に集約することも考えられるのではないかと。

○田口座長

任期は様々な考え方があると思うが、戦略の策定から施策の実施まで、一貫して関わられる体制にすることが望ましいもの良いのではないかと。

また、岐阜県大垣市では、大垣共立銀行が中心に、産・学・官の連携による地域づくりを行っている。こうしたことを参考に、新しい会議体においても、様々な分野で活躍している方が参画し、それぞれの立場で知見を共有することは、非常に重要だと思う。

一方で、デジタル技術に詳しい方を集めすぎると、技術の競い合いになって議論が上手

く進まないこともあると思う。技術優先ではなく、社会課題の解決に向けて、デジタルとアナログをうまく組み合わせながら議論できるような会議体になると良いと考える。

○布施委員

様々、議論をしているが、本日、何かしらの結論を出す必要があるのか確認したい。

○事務局

本日、皆様から頂戴した意見を整理し、市として会議体の在り方を整理した後、本年5月頃に開催予定である本有識者会議において、お示ししたい。

○田口座長

会議体をどうするかは、これまで総合戦略に関わってきた本有識者会議の意見を参考に、市が決定するものである。そのため、本日は、委員の皆様には、事務局が示した論点に沿って自由に発言いただきたい。

○布施委員

未来型政策検討委員会がどのようになるか分からないが、新たな会議体の名称にデジタルという文言を使っても良いのではないか。

○田口座長

デジタル技術の活用は、あくまで社会課題の解決のための手段であることを意識してほしい。

○荒木委員

昨年12月に国立社会保障・人口問題研究所が地域別将来推計人口を公表したが、直近の2、3年の状況は一切加味されていない推計値である。現在、石狩管内では、千歳市のラピダスや、北広島市のボールパークなど、状況が目まぐるしく変化している。過去に捉われすぎず、しっかりと足元の動きを見ていく必要がある。

また、大きな変化をし続ける石狩管内の中で、江別市は相対的に住みやすい地域になっていると思う。

○布施委員

江別市は、管内のどこに行くにしても交通の便が良いまちであることが強みであると感じている。

○田口座長

これからは、地域連携が重要になる。近隣の自治体の動きを把握することが重要である。新しい会議体では、様々な知見を有する方が集まるものであってほしい。また、定期的に大学生との関わりを持ちながら進めてほしい。

○福沢委員

会議体の名称について、現在は、国に合わせて「まち・ひと・しごと創生有識者会議」としているのであれば、新しい会議体においても国の動向を勘案することも考えられる。

○田口座長

基本的な方向性に関しては、事務局案のとおりで問題ないという整理をさせていただく。事務局においては、本日の議論内容を勘案し、より良い会議体の設置に向けて検討を進めていただきたい。

議事（３）次期総合戦略の改定スケジュール（案）について、事務局説明  
【質疑なし】

３ その他（１）第７次江別市総合計画について、事務局説明  
【質疑なし】

その他（２）その他（今後のスケジュール）について、事務局説明  
【質疑なし】

４ 閉会